

社内報 1月号

新年あいさつ 中野英樹

皆さんあけましておめでとうございます。コロナが第5類となり規制のない正月は久しぶりでした。気候的には天気もよく、穏やかな年末年始だったと思います。ただ、元旦に、石川県能登半島を中心に、大地震が発生し甚大な被害をもたらしました。現在も懸命な救助作業が行われ、道路が寸断され、水、電気などのライフラインも大きな被害を受け、避難生活をされている方が大勢います。自然の力の大きさの前では、人間は無力であると改めて感じました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々、またその御家族、関係者の方々にお見舞い申し上げます。

1月2日には、羽田空港で大きな飛行機事故が発生しました。事故の原因については、調査が行われると思いますが、日本航空の乗客が、全員無事救出されたことは、本当に良かったと思いました。海外のニュースでは、奇跡の救出と、乗員に対する賛辞が大きく報道されていますが、日本では原因の追究に対するニュースの方が多く、そうした報道が少ないのが残念な気がします。あのような状況の中で、全員を無事救出し、379名の命を守ったことをもっと讃えてもいいと思います。米国や欧州では、そうした良い面をしっかりと報道し、そこで働いていた人たちをきちんと讃えて、感謝の意を表すことが、まず礼儀としてあるように思います。日本のジャーナリストは、体制の批判が、真実を伝えることであるかのような固定観念に縛られているような感じです。海外では、無事救出の要因は、乗員の日頃の訓練の成果と飛行機(欧州製のエアバスだそう)の設計の正しさをきちんと分析し評価しています。非常時の脱出装置や不燃性の材料使用など、機内を生存できる環境に保ち、そして即時に脱出させる、そして効率的飛行ができる軽さも維持している、そうした技術的なことを分析しています。海外では、良い面をしっかりと評価し、懸命に仕事をした人間を讃えて、そして愛国心を育むことをしますが日本にはそうしたことが少なく、何かと批判的な話が多いので、自己肯定感が低い日本人が増えていくような気がします。事故にあった海上保安庁の飛行機は、地震被災地に物資を届けるための任務であったそうです。それも24時間以内での3回目のフライトだったそうです。事故の原因は、近いうちにわかるとは思います。人間はミスをするものです。原因を究明し再発防止に努めることは当然ですが、自衛隊の人たちは、皆が休日のお正月に、危険な重労働を懸命に行っています。感謝はしても、決して非難されるべきではないと思います。私たちは、自衛隊、消防隊、医療関係者の方々が、被災地でどのように勤務されているかをあまり知りません。とすると当たり前のように、とらえてしまいがちですが、そうした人たちも同じ日本人であり、家族もあって、普通にお正月を過ごす権利は同じようにあっていいはずで

が、懸命に働いてくれています。

さて、話を仕事に戻しますと、この51期は、住宅着工件数が減少したり、物価が高騰したり、また人手不足とか、いろいろなマイナス要因は多くありますが、今までのところは、結果として全体の数字は、ほぼ予定通りになんとか推移できており、営業的にも新しい取引先や元請け受注も増えてきて、若い人たちが女性の活躍も増えてきました。仕事のやり方に関しても、今までは多くの小規模工事を効率的に行うことを前提にしていたものですが、工事内容、規模が大きく変わってきて、前提条件が変わっていますので、やり方を変えた方が、より効率的にできると感じられることも増えてきました。そうした中で、それぞれの仕事に適した多様な人材の必要性も増えてきたように思われます。人手不足の世の中で、入社してもらい、そして、その人が活躍できるかどうかで、会社の行く末が左右されます。人が入らない、入ってもすぐやめる、人が育たないと嘆いている会社は多いわけですが、それではダメなわけです。人は性格も違えば、得手不得手なこともあると思いますが、女性、高齢者、外国人といった多様性も含め、多様な人材が活躍できる会社になる、人が生き生きと働いている会社になることができるかが、今後の企業経営にとっても重要です。今後だけでなく、いつの時代にも大切なのですが、今後はそこでより差がでるのだと思います。過去の固定観念にとらわれず、現状を素直な目でみて、正しく対処していくことが大切です。長くやっていると過去の成功体験などにこだわりがちで、それは会社のためより、自己顕示欲的なところから生じている場合もあり、それが老害と言われるようになってきたりしますので、自ら先陣を切って新しいことにチャレンジするようにしたいですし、全員がそういう気持ちをもってほしいと思います。

多様性を伸ばしていくことは、日本全体を考えると、島国日本は、そうした文化がちょっと苦手なところがあり、もっと育てていかないと、米国をはじめ海外の活力に負けてしまうと思いますし、現状がすでにそうなってしまっていると思います。日本人は、優しく思いやりがあり、とてもウエットな関係を持つのですが、ちょっと異なる人との距離感の持ち方などが、島国日本であり経験がなく、慣れていないところがあるのだと思います。当社としてもさらに、多様な人材が働きやすいような企業文化を育てていくことが大切だと思います。そうした中で、日本らしさ、当社らしさを育てていくことはできると思います。単純に上っ面だけを真似した変なグローバルスタンダードではなく、世界の人が尊敬している平和で思いやりのある日本の伝統の上に、多様な人たちとの共存を大切にす文化が築いていけるかが、今後の日本の行く末を左右するものだと思いますし、グローバルの世の中でそのようにならないと日本の発展はありません。多くの海外旅行客が日本を訪れて喜び感動するのは、日本の長い歴史の中で育まれた思いやりのある文化に接しての

ことです。世界を見渡せば悲惨な戦争が続いていますが、言葉、肌の色、宗教などが異なる人たちと共に生きる術を身につけなくてはなりません。インターネットが普及し、ガザの人々もその70%がインターネットに自由に接続できる環境だそうですが、情報の自由があっても分断はなくなるどころか、かえって分断をあおるように利用されています。我々は、この世界に生き、同じ風景を見ているのですが、自分がその世界をどう捉えるかで見え方は変わり、人の数だけ世界が存在するというのもまた真実です。私たちは学び、知識・情報を得て、また、いろいろ経験して、そして世界を見て、判断をしてしまう。それは、とすると偏見と言われる時もあるかもしれません。世界の争いをみていると、いろんな知識を排除して、素直に目の前に起きていることを見ることの大切さを感じます。花が咲いていれば、美しい花と見て、人には、同じように命があり、泣いたり笑ったりしながら生きているわけです。罪のない人が命を落とすような戦争などするはずもないのに、学んだ知識を使ってそれを正当化してしまう。知識を得て、またその知識を捨てて無になることができれば、世の中の争いもなくなり、無駄なこともなくなっていこうと思いません。そのためには私たちは実際にその場所に行き、人に会って同じ空気を吸って、ぬくもりを感じることも、間違った判断をしないためにも重要です。戦争という極端なことに発展しなくても、似たようなことは、身近な私たちの生活でもあつたりします。違うのは当たり前で、違うことを前提にどのような関係、距離感をもつか、難しい問題で、人それぞれ千差万別で決まった答えはありませんが、してはいけないことはしないようにして、少しでも理解しあえるようになればいいのだと思います。

残業規制

2024年4月より、今まで猶予されていた残業時間の上限規制が適用されます。年360時間以内、月当たり45時間以内となり、罰則規定もあります。平日の通常残業と休日出勤の合計で計算されますので、休日出勤も減らさないとはいけません。いろいろ意見はあると思いますが、法律なので、もうこれを前提に仕事を組み立てていくしかありません。大企業と中小企業では、かなり受け止め方、仕事のやり方に対する姿勢に違いがあるように思いますが、しっかりと守っている(守ることができる)大(優良)企業は、業績もそれなりに確保し、人材も保持しており、なかなか守れずに、どこかグレーな対応をしている中小企業は、業績も芳しくなく、人材難に苦労しているように見受けられます。後ろ向きに対応しても、いずれは法律通りに収まっていくのでしようから、だらだらしても、その間の時間がかたいたいなく、どんどん先にいった方がいいと思います。

北陸営業所の地震災害

1月1日の地震で、金沢にある北陸営業所が被災いたしました。事務所、倉庫内の物

が倒れる程度で、比較的軽微にすみました。

能登半島の家屋は、かなり倒壊しており、木造住宅の耐震強度に再び注目が集まりそうです。1階が完全につぶれてしまっている家屋がテレビ中継で多く映されていました。完全に倒壊することがなければ、圧死する確率はかなり下がるでしょうから、なんとかその程度まで耐震強度があれば、命は救われたのにと考えてしまいます。今後、建築学会や大学の専門家等による調査・報告があると思いますので、その結果を待ちたいと思います。海外では、この規模の地震が起きると、数万人規模の死傷者がでるのが通常なので、海外から見ると被害者の少なさが奇跡のように思えるのですが、日本の感覚では、大変多くの死傷者で、古い木造住宅の耐震強度不足が倒壊を招いてしまったので、何とか死者をゼロにできないものかと考えてしまいます。

脱炭素の流れ(COP28)

昨年 11 月末から、産油国であるアラブ首長国連邦(UAE)のドバイで、COP28(国連気

候変動枠組条約第 28 回締約国会議)が開催されました。欧州や海面上昇で苦しむ島しょ国と産油国、インド、中国といった国の間で、意見の隔たりは大きいのですが、1.5℃目標の実現に向けて、具体的な施策が求められ、化石燃料からの脱却の加速という表現で合意しました。表現はあいまいな感じもありますが、歴史的締結という評価もあります。日本は、東日本大震災より原子力発電が大幅に削減され、石炭火力を中心に化石燃料に発電を依存しており、大きく後れをとっています。世界的な NGO により、化石賞(気候変動対策を後退させる言動を行った国に与える賞)に認定されました。先進国では、化石燃料を廃止する方向で動いているのですが、日本は、CO2 削減対策を行った化石燃料の発電所で発電を続けるという主張ですので、とても後れをとっているわけです。風力発電や電気自動車でも後れをとっている日本は、G7の中で唯一の脱石炭世界連盟に加盟していない国です。日本に対する世界からの期待は、大きいところがあると思うのですが、それだけに失望も大きいので

しょう。化石燃料使用という面では、世界からノーを突き付けられているわけです。電力そのものを化石燃料で作っているのが、電気自動車を普及させても効果は少ないのですが、国際的な圧力が高まる中で、日本としても削減策を打ち出していけないといけないところなんです。各家庭に太陽光電池や蓄電池、また電気自動車の普及などを大きく進めていけると完全に後れをとってしまう日本の状況です。もちろん小さな積み重ねは大切なのですが、世界は日本にもっと大きな変化を求めているように思います。

入社社員紹介

★篠原 啓太 建設事業部 岡崎店
29 歳
趣味:お笑い鑑賞
「1日でも早くお役に立てるよう精一杯頑張ります。」

施工事例紹介

- 施工場所 愛知県 某神社 茶寮
- 工事内容 銅板屋根 修繕工事



■ 担 当 法人事業部 東海営業所 渡邊 大

築年数 100 年近くになる茶寮にて漏水が発生しました。当初は同材の銅板屋根にて葺き替えを考えていましたが、銅の高騰から費用が多額となるため、防水材での修繕を希望されました。田島ルーフィングの高靱性環境対応型ウレタン塗膜 GO-JIN を採用し、既存下地が銅のため、下地研磨方法とプライマー選定について材料メーカーからの技術指導を仰ぎ、トップコートの色も既存の屋根材と同色にて手配し施工を行いました。また景色のいい崖沿いの立地条件であったため、足場仮設も難しく命綱のみでの施工となり、安全面においても非常に難しい現場でした。

ちょっと一言

「安全第一」

設備事業部 東海統括課
伊藤 貴紀



明けましておめでとうございます。設備事業部東海統括課の伊藤です。皆様、お正月休みはどのように過ごされましたか？私は日々、安全第一を心掛けて仕事に取り組んでいますが、今年も体調管理に気をつけ、事故や怪我なく過ごすことができるようにしていきたいと思っています。

さて、今回は趣味の釣りについてお話しします。私は春・秋は海釣り、夏は鮎釣り、そして冬はワカサギ釣り年間を通して釣りを楽しんでいます。よく「魚はスーパーで買える」「釣れない時間は退屈」という声を耳にしますが、魚によって釣れる場所や釣り方も異なるため面白みがあります。また、自然の中で釣りをしているときは無になれる時間です。退屈なものではなく、心身ともにリフレッシュができ、私は釣りをすることで、家庭や仕事のモチベーションを保っています。釣りの日は午前3時に出発するため、早起きをしなくてはいいませんが、明日はどんな魚が釣れるのだろうと眠れないほどワクワクしますし、大物や珍しい魚が釣れた時は、嬉しさとともに達成感を感じます。危険と分かっているけど釣れる場所には近づきたくなるものですが、プレーキをかけることも必要です。

平成 30 年より全ての小型船舶の乗船者にライフジャケット着用が義務化されました。規定を守り安全に行うことは仕事も同様だと思います。若手社員も作業をするにあたり、まずは基本となるマニュアルを順守してもらい、身の危険がないようにすることは仕事以上に大事なことでこれからも指導していきます。

昨年東京事業部の方々と一緒に釣りに行きました。今年も職場の方々と釣りに行けることを楽しみにしています。

★Happy News★

資格取得おめでとうございます

- ★建設事業部 春日井店 中山さん
二級建築士
- ★法人事業部 東海営業所 林主任
危険物取扱者(乙種4類)
- ★経理部 大島さん
建設業経理事務士3級
- ★大阪事業部 阪神営業所 池田さん
2級防水施工技能士(FRP 防水工事業)

ご結婚おめでとうございます

- ★大阪事業部 京滋営業所 奥村さん
12月結婚

お誕生おめでとうございます

- ★住宅メンテナンス事業部 三河営業所 柴田主任
女児誕生
- ★リニューアル工事部 鈴木さん
男児誕生

